

愛知登文会ニュース 第27号

令和2年11月15日号

1 愛知登文会便り

名古屋テレビ塔リニューアルオープンについて

愛知登文会事務局 石坂 喜和

愛知登文会ニュース第23号で「休業に入りました」というコラムを書かせて頂きましたが、あれから約1年8か月を経て遂にリニューアルオープンしました。本来であれば東京オリンピック・パラリンピックに合わせてのオープンを目指していましたが、ご存じの通り新型コロナウイルスの影響によりオリパラは1年延期に。愛知登文会も総会が史上初の役員のみで実施となり、役員会もオンラインになり、楽しかった登文会の取り組みが一変してしまいました。そんな中、まだオープンしていない時でも名古屋市や愛知県からの要請で医療従事者への感謝のライトアップ（青色）、愛知県独自の緊急事態宣言のライトアップ（赤やオレンジ）という形で協力しました。テレビや新聞などで報道されたことにより、「テレビ塔が久しぶりにライトアップされて勇気をもらった」、「自粛を頑張る」という電話がすごく多かったですし、テレビ塔周辺では写真を撮る人、SNSに投稿する人を多く見かけました。やはり栄の街に名古屋テレビ塔の存在は大きいのだとこちらが逆に励まされました。そのような状況下、予定より2か月遅れましたが、何とか久屋大通公園と共に9月18日にリニューアルオープンとなりました。

オープン当日の週は弊社の役員・株主・地域の関係者の皆さんなど、毎日何かしらの内覧会を実施していました。久しぶりの取材陣の多さ、コロナ禍でなかなか会えなかった人たちも来てくださり、改めて人との繋がりの大切さを実感しました。

では一体、名古屋テレビ塔のどこが変わったのか。愛知登文会でも一度公開しましたが免震装置を地下の脚元部分に設置しました。文化財の視点からは正面玄関前には解体された基礎コンクリート、柱脚の鉄骨が置いてあります。単なる石かと思われていますが、60年以上も名古屋テレビ塔を支えてくれた脚です。歴史の重みを感じます。正面玄関に入ると、壁には昔使われていた耐火レンガ、漏電を防ぐための碍子、分電盤の枠、屋内サインなど昔の資材も展示してあります。設計者である内藤多伸博士の図面も壁に印刷してあります。他にもかつてテレビ局の放送機材が入っていた部屋にテナントが入りました。カフェ、お土産屋、VR体験などが出来、展望台に上がらなくてもふらっと遊びに来て、景色を楽しめるゾーンも出来ました。メディアで大きな話題となり多くの問い合わせがありますが、名古屋テレビ塔内にホテルが入ったことも特筆すべき点かと思えます。登録有形文化財がホテル・旅館といった宿泊施設になっている所は多々ありますが、登録有形文化財のタワー内にホテルというのは世界初かと思われます。名古屋テレビ塔自体が1954年に完成し、66年経過しています。そういった古き良きものを残しつつ、最先端の機能などを備えたホテルとなりました。ホテルのスタッフの方からは特に客室内に鉄骨が突き抜けているのに驚かれるお客さんが多いとの事です。



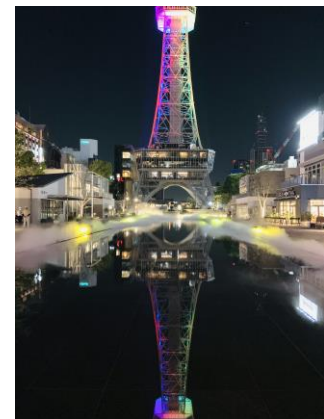
▲新・名古屋テレビ塔塔体



▲壁面に印刷された内藤多伸博士の図面



▲テレビ塔とHUB2



▲水盤とテレビ塔夜景

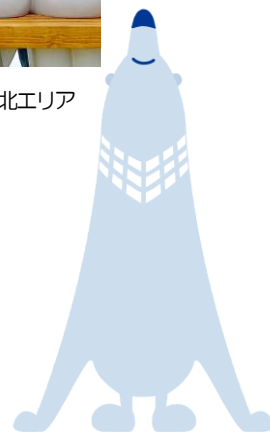
最後に忘れてはいけないのが、マスコットキャラクターも誕生しました。その名も「ウエミーヤ」です。性格は常に上向き志向、特徴はテレビ塔を眺めすぎて上しか見られません。誕生日が9月18日で口癖が「上見やあ。」となっています(名古屋テレビ塔HPより)。個人的には打倒、通天閣のピリケンさんです。ちなみに通天閣の設計者は名古屋テレビ塔と同じ内藤多伸博士で同じく登録有形文化財です。

周辺の変化もお伝えしますと、名古屋テレビ塔現在、この原稿を書いている時期がちょうど「あいたて博」の動画撮影の真っ只中です。事務局として動画撮影に立ち会うため県内の色々な登録有形文化財を訪問させて頂いています。登録有形文化財は当たり前ですが全て同じ時期に出来たわけでも建てた人も違います。造りも異なりますが、全ての建物に当時の人たちの思い、そして物語があります。今の所有者の方々は見ただけの当時の先祖からの思いを受け継ぎ、各文化財の活用の仕方・後世に残すべき活動をされている姿を拝見するたびに魂が揺さぶられます。名古屋テレビ塔も負けていられません。登録有形文化財として大切に維持管理をしていくのはもちろんいつまでも名古屋のシンボルとして皆さんに愛される施設として歩いていく所存です。愛知登文会でも名古屋テレビ塔の魅力を皆さんに知って頂けるよう動いていきますので今後もよろしくお願いいたします。



▲久屋大通公園 テレビ塔北エリア

ウエミーヤ ▶



県内の登録文化財の活用事例紹介



vol.8

日本福音ルーテル復活教会(名古屋市)

日本福音ルーテル復活教会は昭和28(1953)年に現在の教会が献堂され、平成24(2012)年に登録有形文化財となりました。数多くの愛される西洋建築を手がけた建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズによる設計で、ヴォーリズ建築ファンの皆様が全国各地から見学へ訪れます。

献堂されてから現在に至るまで毎週日曜日に礼拝が行われ、時には結婚式などの人生の節目の場として活躍しています。教会の女性会では30年以上前からオリジナルケーキを焼いており、近年では結婚式の引き出物としても喜ばれています。文化財登録時に復活教会で牧師をされていた戸田裕先生が40年程前に交換牧師としてアメリカの教会で働いていた頃、牧師夫人の静さんが現地のご婦人達から教わったレシピを今も守り、このケーキは作られています。にんじん、バナナ、パウンドの3種類があり、どれも美味しいと評判でイベント時に販売しています。(在庫がある時は、いつでもお分けします!)売上は教会へ献金し、建物の維持管理に役立っています。

近隣の方々にも教会の存在を知っていただけるように、地域で行われるイベントへ積極的に参加をしています。今までに名古屋市東区「歩こう!文化のみち」、「いっしょに探検!体験!発見!いっくみする」などへ参加させていただきました。自主的にミニバザーやハンドメイド作品展も開催し、楽しみながら交流を広げています。

あいちヘリテージマネージャー・なごや歴まちびと 山田 美紀子

復活教会は、コンサート会場としても利用されています。近所にお住まいのプロギタリストによるクラシックギター演奏会は10年以上続いており、その他にチェンバロコンサート等も行われます。音の反響が心地良いため、観客だけでなく演奏者の方々にもたいへん好評でコンサートをリピート開催されることが多いです。

2020年度の「あいちのたてもの博覧会」がオンライン開催となったことをきっかけに日々教会で行われていることを動画で記録し、積み重ねていくことにしました。今後は新たな情報発信ツールとして撮影した動画を積極的に活用していきたいと思っています。



▲結婚式



▲地域イベントにて紙芝居

テレビ塔来場記念にどうぞ！ 「名古屋テレビ塔ペーパークラフト」

愛知登文会理事 笥 清澄

ペーパークラフトと聞いて、簡単なただの紙工作だと高を括ると大変な目に合うペーパークラフトになってしまいました。しかし完成すると「ああ、テレビ塔だ・・・」と人に見せたくなる。それが「名古屋テレビ塔ペーパークラフト」です。

「名古屋テレビ塔クロニクル」というテレビ塔の誕生にまつわるエピソードをまとめた書籍の巻末付録用に製作したもので、我ながらとても良くできました。

これまで、このペーパークラフトを使ってもっとテレビ塔のことを知ってもらえるように子供向けのワークショップで子供たちに作ってもらいましたが、自分で作ることでテレビ塔が大好きになる魅力がありました。

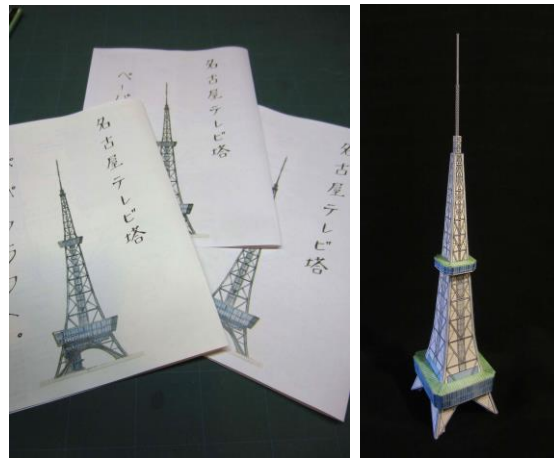
さて、リニューアルオープンしたテレビ塔の展望エレベーター乗り場がある3階には設計者の内藤多仲から名付けられた『多仲（タチュウ）』というテレビ塔にちなんだグッズを集めたショップが設けられ、ここに「名古屋テレビ塔クロニクル」と「名古屋テレビ塔ペーパークラフト」も、店頭に加えていただくことになりました。

テレビ塔に来た記念にしたい・・・みんながそう思うペーパークラフトになればうれしいです。

発売してしばらく経ちますが、果たして購入した方たちは無事に完成させることが出来ているのでしょうか・・・きっと、ペーパークラフトを作るのが案外難しいことで、リニューアル工事も難工事だったに違いない・・・と気づく方がたくさんいるのではないかと思います。笑

先日納品の時にエレベーターに乗り合わせた若い夫婦が今度子供を連れてきたときに何処を紹介しようか・・・と、下見している会話が耳に入ったので、この名古屋テレビ塔をモデルに東京タワーが建てられたんですよと話しかけたところ、いろんな質問が矢継ぎ早に飛んできました。

是非多くの方たちにこの「名古屋テレビ塔ペーパークラフト」と「名古屋テレビ塔クロニクル」を手に入れて、その答えを手に入れてもらえればと思います。



▲ペーパークラフトのキット（左）と完成形（右）



GO TO おうちで常滑まちあるき！

皆さんは「おうちミュージアム」をご存じでしょうか？

コロナ禍で外出が難しくなったお子さんたちのために、各地のミュージアムが自分たちの取り組みを感じてもらえるようなアイデアを出し合っていてインターネット上で公開しています。愛知登文会でもいち早くFACEBOOK ページで自宅でお子さんを楽しめるよう市役所や県庁、テレビ塔の折り紙建築の型紙を公開してきましたが、この取り組みに INAX ライブミュージアムが賛同くださり「折り紙建築 常滑まちあるきシリーズ」としておうちミュージアムに参加させて頂くことになりました。

折り紙建築 常滑まちあるきシリーズは、この INAX ライブミュージアムとミュージアムのある常滑のまちの魅力を紹介するため、「窯のある広場・資料館」、「登り窯」、「いちき橋」、「土管坂」、「とこなめ陶の森 陶芸研究所」の5つの型紙を用意して、皆さんがご自宅で常滑のまちの名所を手にとって見て楽しめるようにしました。

苦心の末に完成した自信作なので多くの皆さんに挑戦していただければと思います。

さて、先日テレビを点けると、常滑市では常滑を舞台にしたアニメーションの力を借りてまちの観光力を取り戻そうという取り組みが始まっているというニュースが流れていました。

折り紙建築 常滑まちあるきシリーズにも、映画でも紹介された常滑のまちの風景が用意されています。皆さんも「おうちミュージアム」「折り紙建築」で検索してみてください！

まだまだ大変なウイズコロナの時代ではありますが、「おうちミュージアム」をきっかけに、折り紙建築をもって本当の常滑のまちあるきをする人たちがたくさん現れると嬉しく思います。

愛知登文会理事 笥 清澄



2 事業実施報告「文化財ガイド育成事業」(2020年度)

あいちのたてもの博覧会(建物特別公開)における建物解説をより魅力的なものとするための事業で、今回で4度目の開催です。「あいたて博」の解説者を中心に、建物ガイドに関心のある方にご参加いただきました。

全1回 文化財ガイド育成のための見学講習

建物見学や意見交流を通して、より魅力的な文化財ガイドを学ぶための講習会です。前半は会場となる登録文化財のモデル解説を行い、後半は参加者の意見交流を行います。

今年度は、名古屋市東区にあるカトリック布池教会で行いました。この教会は、2本の尖塔と幾種類ものステンドグラスが特徴のゴシック様式の建物です。建築史家の村瀬氏の案内のもと、大聖堂や祭壇裏、尖塔、パイプオルガンの内部などを見学し、見学会の後は地下ホールにて文化財ガイドについての経験交流を行いました。今年特有の話題として、建物解説の動画制作についても意見交換がされました。

当日の見学会の様子は「オンラインあいたて博」のオンデマンド動画の一つとして後日配信予定です。

	日時	場所	講師	参加者
第1回	2020.10.5(月) 14:00~16:00	布池教会	村瀬良太氏(建築史家)	8名



▲布池教会外観の解説



▲祭壇の見学



▲尖塔の見学

愛知登文会 YouTube チャンネルを開設しました!

「オンラインあいちのたてもの博覧会」の開催に合わせ、愛知登文会の YouTube チャンネルを開設しました。

所有者や専門家の建物解説を含む登録有形文化財の紹介動画を順次投稿していきます(オンデマンド配信)。

また、オンラインあいたて博ではライブ配信も予定しています。開催日時は当会ホームページをご覧ください。

YouTube の検索欄で「愛知登文会」または「あいちとうぶんかい」と入力してください。「チャンネル登録」をしていただくと次回動画が視聴しやすくなります。



編集後記

事務局である名古屋テレビ塔がリニューアルしたことは、コロナ禍で明るいニュースとなりました。愛知登文会の活動も「やれることを最大限やろう」を掛け声として、Zoom や YouTube など新しいことに取り組んでいます。

今年度のあいたて博は YouTube の動画配信を中心としたオンライン開催です。4名のカメラマンにご協力いただき、現在、配信予定の28の建物について順次撮影と編集を進めています。カメラに向けた解説や画面越しの建物の見せ方検討、はたまた YouTube の設定など、いつもとは勝手の違う準備に戸惑いながらも、例年に劣らないイベントをめざし動画づくりに取り組んでいます。

皆さまのご参加(ご視聴、コメント、アンケート)をお待ちしています!

愛知登文会ニュース 第27号

発行日: 令和2年11月15日

発行者: 愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番15号
名古屋テレビ塔株式会社内

TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561

E-mail info@aichi-tobunkai.org

HP http://www.aichi-tobunkai.org

Facebook @aichi.tobunkai

Twitter @aichitobunkai

Instagram aichitobunkai